3. 道路交通上の課題

- 【①災害に対し脆弱な道路ネットワーク】
- 〇災害発生状況(十津川村内)
- ▶ 十津川村内の国道168号では過去10年間(H21年度~H30年度)に、落石、崩壊等による通行止めが25箇所で発生。降雨時の事前通行規制により計100回の通行止めが発生。
- ▶ 紀伊半島大水害(平成23年9月台風12号)では、十津川村内で大規模な崩壊が30箇所で発生し、10地区(103世帯、195人)が孤立。十津川村内の国道168号では10箇所が被災し、救命・救急活動に支障。
- ▶ 十津川村内の国道168号には防災点検要対策箇所(51箇所)、地すべり危険箇所(3箇所)が存在し、災害に対して脆弱。

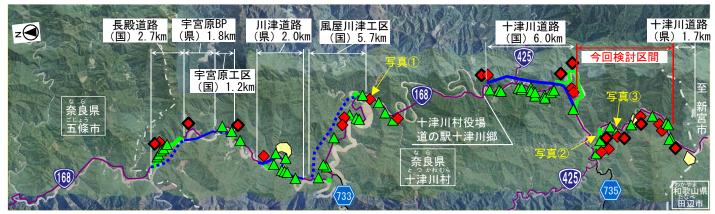


図 十津川村周辺地域の被災状況

年度	回数 (十津川村内)	回数 (今回検討区間)			
H21	5	5			
H22	13	13			
H23	14	13			
H24	5	5			
H25	12	7			
H26	6	4			
H27	4	3			
H28	13	10			
H29	12	7			
H30	16	9			
合計	100	76			

国道168号 事前通行規制による通行止め回数

凡 例

地域高規格(供用済)
地域高規格(事業中)
一般国道

既往災害発生場所(H23.9月 台風12号)
既往災害発生場所(H21.4~H31.3、台風12号を除く)

协災点検要対策箇所

地すべり危険個所(H10 奈良県公表) 幅員狭隘区間(幅員5.5m未満)





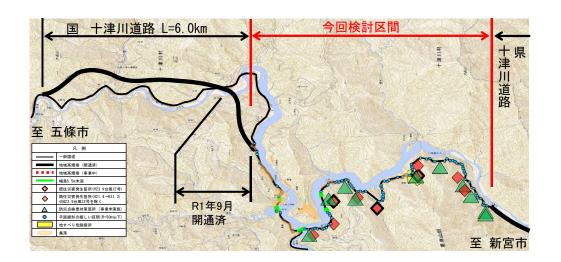


写真 国道168号被災状況

道路交通上の課題

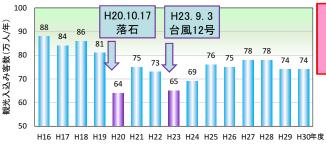
【②国道168号道路状況(今回検討区間)】

- ▶ 今回検討区間の国道168号は地すべり危険箇所(1箇所)や既往災 害発生箇所(9箇所)、防災点検要対策箇所(10箇所)が存在。
- ▶ 今回検討区間の国道168号は断崖・絶壁を伴う急峻な地形にあり、 幅員5.5mを満たさない幅員狭小区間が約0.5km存在。



【④災害による観光産業への影響】

- ▶ 十津川村の観光入込客数は近年は75万人程度で推移。
 - 十津川村内就業者の約4割が飲食、宿泊などのサービス業に従事。
- ▶ 主要なアクセスルートは国道168号であり、台風12号による災害が 発生した平成23年度の観光入込客数は65万人と大きく減少。



15% 図 十津川村の産業別就業割合

出典:総務省•経済産業省

飲食・宿舎など

のサービス業

41%

「平成28年経済センサス-活動調査結果」

建設業

30%

医療

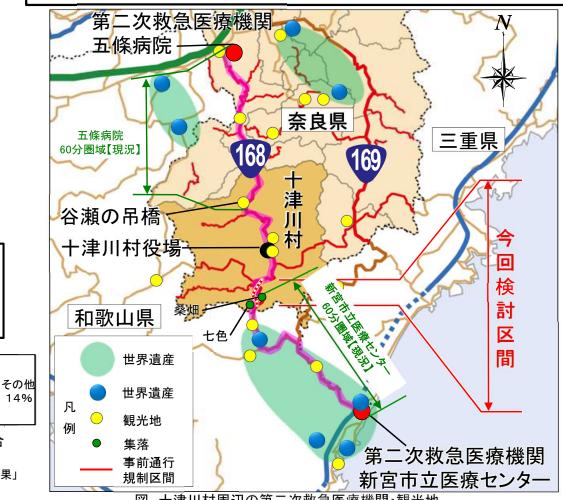
教育

公務

14%

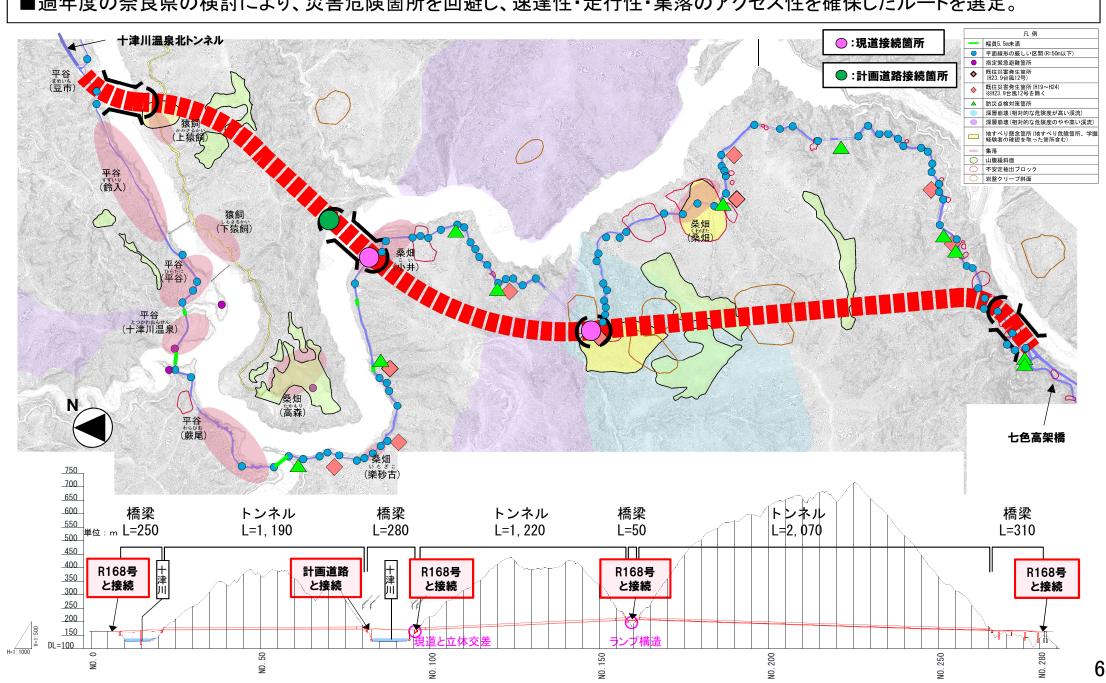
【③第二次救急医療機関へのアクセス】

- ▶ 十津川村内から最寄りの第二次救急医療機関へ搬送するには、 ほぼ全域で60分以上を要する状況であり、救急搬送時間の速達性が 課題。
- ▶ 国道168号通行止め時に迂回路となる周辺道路は、ほぼ全線が事前 通行規制区間に指定されており、災害・豪雨時の救急活動が懸念さ れる。
- ▶ 現道は急カーブ(R≦50m)区間が94箇所存在。走行性が悪いため、 搬送患者への負担が課題。



4. 奈良県による検討ルート

■過年度の奈良県の検討により、災害危険箇所を回避し、速達性・走行性・集落のアクセス性を確保したルートを選定。



5. 期待される整備効果

① 災害に強い道路ネットワーク

• 災害発生箇所を回避し、安全で信頼性の高い道路ネットワークを確保。

指標	現 況	整備後
■既往災害発生箇所(H21.4~H31.3)の通過箇所	9 箇所	0 箇所
■幅員5.5mを満たさない幅員狭隘区間	0.5 km	0 km

② 第二次救急医療機関への速達性・走行性の向上

- 第二次救急医療機関(新宮市立医療センター)への搬送時間の短縮、60分圏域集落の増加。
- 走行性の悪い急カーブ区間の回避による搬送患者への負担軽減。

指 標	現 況	整備後
■十津川村内の新宮市立医療センター60分圏域集落	2集落	4集落
■平面線形の厳しいカーブ区間(R≦50m)の通過箇所	94 箇所	0 箇所

③ 観光振興の支援

- 当該区間の整備による移動時間の短縮。
- ・ 走行性の向上による紀伊半島沿岸部と内陸部の世界遺産などの 周遊性向上。

指標	現 況	整備後
■新宮市から「谷瀬の吊橋」までの所要時間	約100分	約91分



図 十津川村周辺の第二次救急医療機関・観光地